

ピア・サポートが支える学校 学校が支えるピア・サポート

2006年10月7日 千葉市 幕張 O V T A
日本ピア・サポート学会 第5回大会 記念講演

バーンズ亀山静子

学校は楽じゃない！

いじめ
低学力
キレやすい子どもたち
非行
校内暴力
学級崩壊
家庭教育力の低下
不登校
少子化
教師の大量交代に伴う変化
入試制度・受験のひずみ
発達障害の子ども

...米国ではさらにプラスして

人種による格差
教師不足
児童生徒の増加
地域（貧富）による教育格差
学校の説明責任

どこに批判がいくか

原因を子ども個人に求める
（素質・性格・家庭的バックグラウンド等）
原因を教師の資質に求める
（プロとしての力不足・認識不足・意欲等）
学校の管理のしかた・システムが原因
（管理職の能力不足・学校が明確なポリシーを持たない・予算や時間の制約等）
社会が悪い！
（モラルの低下・経済状況・価値観の多様化等）

学校の中での取り組み 個々のニーズに応えよう

学力 （指導法の見直し
特別支援教育の導入）
情緒 （心の教育
スクールカウンセラーの導入）

教育のシフト

学力向上 心の教育

どちらかをとるのでは片手落ち 脳科学の分野で実証

教育的ニーズとは？ 巷で言われていること

学習の主体者である児童生徒本人と、彼らを取り巻く保護者・教師らの願いなどにより必要としている支援。（札幌養護学校研究紀要より）
教育的ニーズとは何か、障害があることとイコールすることは混乱がある。（文科省）
障害の有無にかかわらず全ての子どもは「一人ひとり特別なニーズ」を持っています。
本来「個別の教育支援計画」は障害に関わらず、一人ひとりの子どもが「特別なニーズ」を持って地域の普通学校で学ぶからこそ必要なものであり、この原則のもと、「個別の教育支援計画」は特別なニーズを個別的な障害に伴う課題に特化することなく、「共に生きるための教育支援のあり方」を策定すべきではないでしょうか。

（宮城県議会・本会議での質問）

自らの力で解決困難な課題（これからの支援教育検討協議会）

ニーズに関して

Needs (必要性) と Benefit (恩恵) の違い
Needs (必要性) と個性

特別支援からみんなの支援へ

子どもはみんな同じ？
学習の仕方はみな同じ？

子どものニーズをどう見つけるか？

プロの勘
日常の観察
テストや作品など

子ども・学校・地域コミュニティ



ピア・サポートが学校を支える

< 学校全体 >

個に届く支援の手が増える (数量・質)
親身になって話を聞く人が増える
思いやりある環境づくり
予防教育の促進
友だち関係づくりの促進

< 教師にとって >

生徒同士の対話
対立の解消
いじめ予防
保護者とのリエゾン
教科の個別指導支援

< 生徒にとって >

自分や仲間についての理解が深まる
コミュニケーションスキルの向上
自尊感情の向上
問題解決スキルの向上
下級生への配慮や理解の促進

ピア・サポートを支える学校は

管理職の認識・理解
教職員の認識・理解
管理職・教職員のチームワーク
学校全体としての取り組み
保護者・地域社会への働きかけ
保護者・地域社会からのサポート

教科学習と情動学習が同時進行

効果的な学習には思いやりが必要

日常的なライフスキルの指導

情動教育と学校における他のサービスとのリンク

ゴール設定と問題解決で指導に集中

生徒の違いに合わせたバリエーションのある指導

共感を促進するボランティア活動

保護者を巻き込む

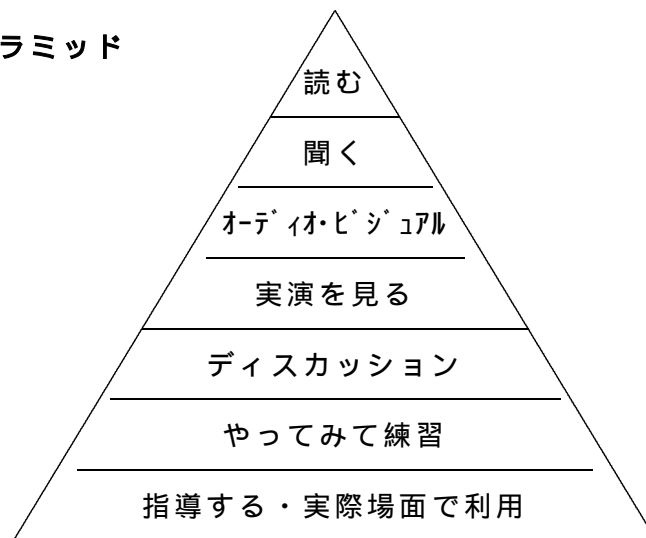
社会性・情動スキルを徐々にシステムチックに築く

教職員へのトレーニングと支援

評価

モーリス=エリアス「教科・社会・情動学習」より

デールの学習ピラミッド



おわりに

「私たちが問題に陥るのは私たちが何かを知らないことが原因なのではない。
私たちが“そうではない”と確信を持ってしまっていることが原因なのだ。」

マーク=トウェイン

パワーポイント資料より作成